

■ CORE 発想の商品開発から

すべてのワークプロセスから、開発テーマを発想します。クライアント企業のコア・コンピタンス(中核の競争力)を見極め、**ブランディングを意識**した実効性のあるプロジェクトや商材をデザイン提案します。

■ CYCLON 効果の情報開発へ

商品開発と連動した販売プロモーションが大切な時代になっています。商品情報をアクティブに発信・加速していく自発的なプロモーション戦略が、今メーカーに求められています。**商品開発から情報開発へ**を共に考えます。

Synergistic relation

デザイン開発

- 市場把握・企画から、販売・情報の蓄積までの開発フローの全てのプロセスに、競争力のある発想のシーズが潜んでいます。クライアント企業と深くコンサルティングな係わりを築きます。
- 市場はコモディティー(どこにでもある)商品を探していません。クライアントのコア・コンピタンス(中核の競争力)を活かして、独自のPI(プロダクト・アイデンティティー)を創造します。
- カタログ・パッケージ・POP等、プロモーションや販売戦略無くして競争力のある商材は生まれません。コンセプト・イメージを正確に商品化するフォローワークに、WEBカタログやCD-ROM等の新しい情報ツールを含め総合的に対応します。

総合プロデュース

- クライアント企業のコアを「言葉」として捉え見据える中で、CI(コーポレート・アイデンティティー)的な色やかたちから、商品やプロモーションに至るまでブランディングを意識します。
- ユニバーサルや環境コンシャス、グローバルネットやワークスタイルの変化等の社会テーマに積極的にアプローチします。社会や時代の価値観を変革するプロジェクトに関わります。
- 商品の紹介・販売の実践ノウハウやネットワークの活用により総合的なライフスタイルを提案します。又、クライアント企業のデザイン開発にリンクさせ、情報をフィードバックします。

ネットワーク提案

- IT導入やマルチメディアを始め、MONOづくりや販売プロモーションのクリエイティブ・ネットワークを確立し、よりアクティブで効果的なワーク提案をします。クリエイティブ・ネットワークSNS「skyfull-stars.net」の構想実現を目差しています。
- 人と人を繋ぐコア・コンセプトで社会ウォンツを捉え、プロダクトやグラフィックといった従来のワークフィールドを超え、新たな社会・地域のネット・インフラを提案し、クライアント企業の事業振興にも有機的にフィードバックしていきます。

印刷SP

パンフレットやカタログ等の印刷物でもより新たな表現を求めて紙質や印刷方法など多くの情報の中で可能性を探ります。

デジタルPOP

ディスプレイを使ったデジタル店頭POPや展示・発表説明会などでのプロジェクター投影など、ダイナミックで訴求効果のあるプロモーションが求められています。

情報開発

商品情報や購買動機付けの背景が大きく転換しています。商品開発が実は情報価値の開発と同じことを意識する必要があります。独自ドメインやサーバー・アプリケーションのリーズナブルな活用環境が背景となっています。

ソーシャル・ネットワーキング・サービスは顧客コミュニティを形成し、情報や潜在ニーズを掘り起こし、口コミ・販売SPや商品提案にフィードバック活用ができます。オープンソース利用により廉価運用します。

ホームページ

本社オフィシャルページとして会社案内や求人情報、業務分野の情報など、幅広いセンター的役割に今後は特化していきます。

ブログ

あくまでも業界や商品などの情報を中心に、手軽に発信と交流をする中で、多彩なネットワークが拡がります。ホームページやWEBカタログと連携し合うことで、相乗的な情報戦略に取り組みます。

WEBカタログ

WEBカタログは商品単体の独立サイトで情報や商品紹介を通じて、直接的に販売SPを強化し、代理店や営業サイドをサポートすることができます。Flashを使用し商品イメージを最大限に表現し伝えます。

SNS

商品の魅力と特徴を潜在ターゲットに伝えることから始まります!!

商品開発から情報開発へ

- 創れば売れる時代は過ぎました!! スカイフルスターズは商品開発を販売戦略まで含めて考えます。情報・新時代の販売プロモーションを有機的に活用するノウハウでお応えします。

ユーザー商品検索の時代

- 各種の発信サイトを相互リンクすることで、情報の検索へのヒット率を高め、SEO(検索エンジン最適化)対策を実施して商品認知を最大限アピールします。

顧客コミュニケーション

- WEBカタログやブログそしてSNSは、印刷物のパンフレットやカタログなどに比べ、スペース的制限とコストの面でも大きなアドバンテージを持つと同時に、顧客とのコミュニケーションによる情報のフィードバックや口コミ展開が期待されます。